

2025年（令和七年）

6月20日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

当週（6月12日～18日）の国際石油市場は、イスラエルのイラン攻撃とその反撃の応酬で、5ドル強値上がりした。週後半の17日のIEA2025年需要見通しの下方修正もあり、上値を抑えた。

NYのWTI原油先物市場は、6月12日小反落の68.04ドルで始まったが、13日はイスラエルのイラン攻撃開始で72.98ドルに高騰、週明け16日は小幅に反落したが、17日は大幅反発、18日は小幅に続伸し75.14ドルと70ドル台半ばで終わった。

また、中東産バイ原油/東京市場（8月渡し）も、前週（6月5日～11日）は64.00～66.80ドルの範囲で推移したが、当週は、6月12日68.80ドル、13日74.20ドル、16日73.40ドル、17日72.30ドル、18日75.10ドルだった。

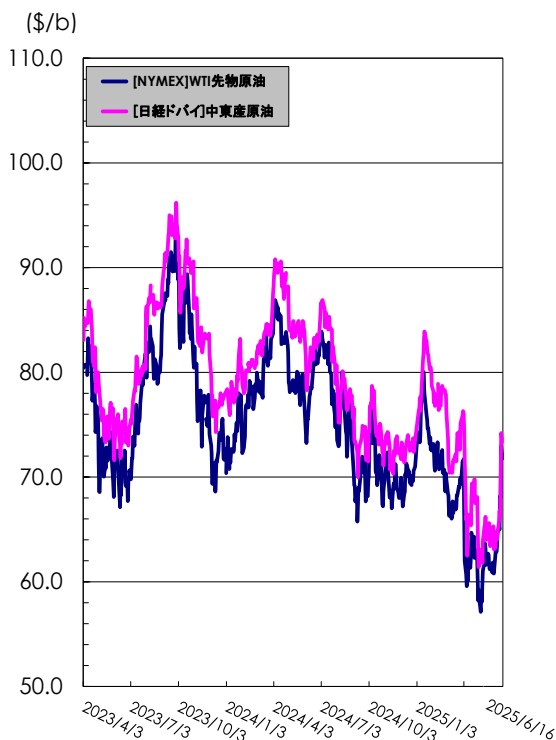
対ドル為替レート（TTM）は前週（6月5日～11日）142.73～144.94円の範囲で推移したが、当週は、6月12日144.12円、13日143.08円、16日144.42円、17日145.08円、18日145.36円だった。

財務省が6月18日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、5月下旬の原油輸入平均CIF価格は67,420円で前旬比681円安、ドル建てでは73.56ドルで前旬比1.70ドル安、為替レートは1ドル/145.69円。また、5月月間の原油輸入平均CIF価格は68,166円で前月比5,271円安、ドル建てでは75.24ドルで前月比3.76ドル安、為替レートは1ドル/144.04円。

そのような中で、6月16日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比1.0円安、軽油も同0.9円安、灯油は同5円安（18リットルベース）だった。ガソリンの全国平均価格は171.2円だった。

6月19日～25日、燃料油補助金の支給額は、前週に続き、ガソリン・軽油の場合10.0円（補助上限）、灯油・重油の場合5円（補助上限）となった。

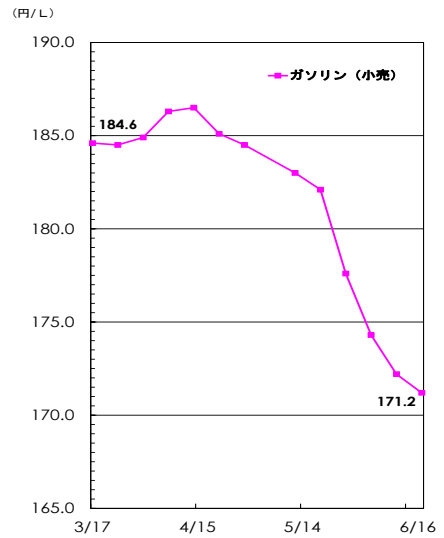
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量（千kl）	6/8～6/14	2,320 ▲49	▲-
	トッパー稼働率（%）	"	67.0 ▲1.4	▲-
	原油在庫量（千kl）	6/14	12,324 ▲185	▲-
価格	中東産原油（日経バイ）（\$/bbl）	6/16	73.40 ▲7.60	▼-7.8
	WTI先物原油（NYMEX）（\$/bbl）	6/16	71.77 ▲6.48	▼-8.6
	原油CIF単価（\$/bbl）	5月下旬	73.56 ▼-1.70	▼-15.36
	①原油CIF単価（¥/kl）	"	67,420 ▼-681	▼-19,531
	②ドル換算レート（¥/\$）	"	145.69 ▼-1.83	▲9.78
	外国為替TTSレート（¥/\$）	6/16	145.42 ▲0.48	▲13.11



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週		前週比	前年比
需給	在庫	6/14	1,886	▼ -57	▲ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 6/10 ~ 6/16	74.0	▼ -1.4	▼ -9.0
価格	(TOCOM/中部)	6/16	70.0	➡ 0.0	▼ -10.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/16	171.2	▼ -1.0	▼ -3.5

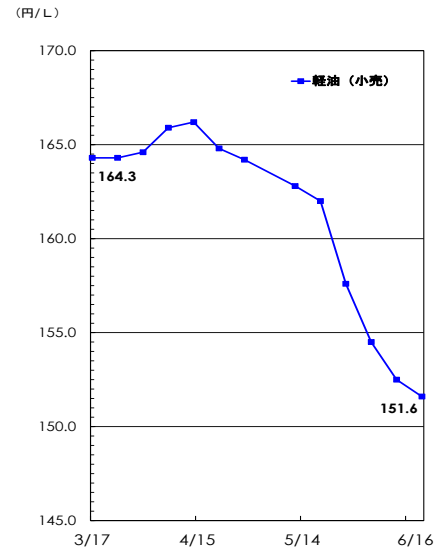
※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

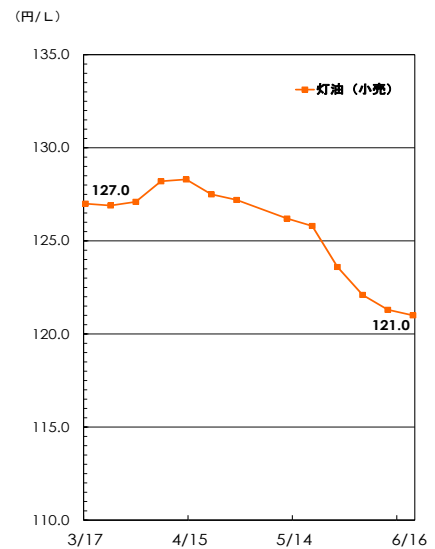
軽油		今週		前週比	前年比
需給	在庫	6/14	1,639	▼ -195	▼ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 6/10 ~ 6/16	78.1	▲ 0.2	▼ -5.8
価格	(TOCOM/中部)	6/16	-	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/16	151.6	▼ -0.9	▼ -2.8

※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週		前週比	前年比
需給	在庫	6/14	2,013	▲ 53	▲ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 6/10 ~ 6/16	76.4	▼ -0.8	▼ -5.1
価格	(TOCOM/中部)	6/16	76.0	➡ 0.0	▼ -5.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/16	121.0	▼ -0.3	▲ 3.9



■ 関連情報

1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（6月5日～6月11日）のNYMEX・WTI先物市場は、63.37～68.15ドルの範囲で推移した。

当週6月12日は、米国・イラン核交渉の難航する中、米国政府は、在イラク大使館関係者の退避を認めるなど、中東地域の緊張激化で当初値上がりしたものの、利益確定売りが横行し、小反落した。7月物終値は、前日比0.11ドル安の68.04ドル。

週末13日は、イスラエル軍がイランの核施設・軍事施設等100か所を攻撃、攻撃は継続するとし、イラン軍もドローン等で反撃し、中東情勢は激変、石油供給への影響懸念が大きく高まり急上昇、2月11日以来約4か月ぶりの高値を記録した。7月物終値は前日比4.94ドル高の72.98ドル。

週明け16日は、イスラエルとイラン間で戦闘は激化する中、イスラエルのイランのエネルギー施設の攻撃は限定的、イランはサウジ・カタール・オマーン3カ国に米国への仲介を打診、あるいは、ロシアも停戦を呼び掛けるなど、過度の緊張は緩和、反落した。7月物終値は1.21ドル安の71.77ドル。

17日は、イランの停戦模索の情報が出る一方、ホルムズ海峡付近で電波妨害による船舶位置情報混乱が原因とみら

れるタンカー衝突事故が発生、海峡航行の地政学リスクの拡大で、大きく反発した。ただ、国際エネルギー機関(IEA)の石油市場報告は、2025年の世界需要を下方修正するとともに、イラン・イスラエル軍事衝突をエネルギー情勢に「最も深刻」な事態と評した。7月物終値は同3.07ドル高の74.84ドル。

18日は、前日、米国国家安全保障会議が開催、イランへの参戦を協議するなど、イスラエル・イランの紛争は激化、わずかながら、続騰した。ただ、イランのハメネイ師は、米国と交渉を模索中との情報もあり、米国内でも、この日発表の石油在庫情報がガソリン・ディーゼルの前週比積み増しを報告するなど、上値は重かった。7月物終値は0.30ドル高の75.14ドル。

2 海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局(EIA)の、6月18日発表の13日現在の米国在庫週報によれば、米国の原油在庫は前週比1,100万バレル減と大きい取り崩しだったが、ガソリン在庫は同20万バレル増、中間留分在庫は同50万バレル増と、原油と製品でまちまちな内容で、市場に大きな影響はなかった。

EIAによると、6月16日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比3.1セント高の1ガロン3.139ドル(120.5円/ℓ)と4週ぶりの値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比10.0セント高の1ガロン3.571ドル(137.1円/ℓ)と2週連続の値上がり。

ベーカー・ヒューズ社によると、6月13日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比3基減の439基となった。

3 国内/原油処理量

石連週報によれば、2025年06月08日～06月14日に休止したトッパー能力は69.1万バレル/日で、前週に対して4.1万バレル/日減少した(全処理能力は311万バレル/日)。

原油処理量は232.0万klと、前週に比べ4.9万kl増加。前年に対しては4.1万klの増加。トッパー稼働率は67.0%と前週に対して1.4ポイントの増加、前年に対しては3.6ポイントの増加となった。

4 国内/製品在庫量

6月14日時点の在庫は、灯油で積み増しとなり、ガソリン、ジェット、軽油、A重油、C重油は取り崩しとなった。

ガソリンは188.6万kl、前週差5.7万kl減。前年に対しては1.2万kl多い。

灯油は201.3万kl、前週差5.3万kl増。前年に対しては31.0万kl多い。

軽油は163.9万kl、前週差19.5万kl減。前年に対しては0.1万kl少ない。

A重油は71.4万kl、前週差0.3万kl減。前年に対しては3.5万kl少ない。

C重油は161.2万kl、前週差9.3万kl減。前年に対しては15.8万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (6/14)	前週 (6/7)	前週比
ガソリン	1,886	1,943	▼ -57 (-3%)
ジェット燃料	888	924	▼ -36 (-4%)
灯油	2,013	1,960	▲ 53 (3%)
軽油	1,639	1,834	▼ -195 (-11%)
A重油	714	717	▼ -3 (-0%)
C重油	1,612	1,705	▼ -93 (-5%)
合 計	8,752	9,083	▼ -331 (-3.6%)

5 国内/元売会社製品卸価格

6月10日～16日のドル建て中東原油価格は前週比大きく値上りし、為替レートはほぼ横ばいで、元売会社の卸建値は大きく値上げされたものと見られる。ただ、6/19からの補助金は10.0円(先週同額)で、実質卸価格も大きく値上がりとなった模様。

6 国内/製品小売価格

6月16日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.0円安の171.2円、軽油も同0.9円安の151.6円、灯油は18 $\frac{1}{2}$ ベースで同5円安の2,178円(1 $\frac{1}{2}$ ベースでも0.3円安の121.0円)。ガソリンは8週連続の値下がり、軽油も8週連続の値下がり、灯油も8週連続の値下がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上りが1県(福井県)、横ばいが1県(鳥取県)、値下がり45都道府県だった。全国最安値は愛知県と埼玉県、その次は宮城県の165.1円であった。他方、最高値は長崎県の181.9円。値上がりしたのは福井県(同0.3円高)、最も値下がりしたのは佐賀県(同3.3円安)だった。

次回調査時(6/23)のガソリンの小売価格は、値上がりが予想される。

(単位：円/ℓ)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (6/16)	前週 (6/9)	前週比	直近高値
レギュラー	171.2	172.2	▼ -1.0	2023/9/4 2025/4/14 186.5
灯油	121.0	121.3	▼ -0.3	08/8/11 132.1
軽油	151.6	152.5	▼ -0.9	08/8/4 167.4

小売価格

※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回(2025第12号)の公表は、6/27(金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場(取引の中心限月)の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。